

学芸クラブの効果的な展開を求めて

中学語学部顧問

辻 弘

学芸クラブの効果的な展開を求めて

— 中学語学部の実践から —

中学語学部顧問 辻 弘

I. まえがき（語学部指導の理念）

本校に赴任して9年目になるが、中学語学部の顧問を拝命して8年目になります。

この8年間の試行錯誤の中から、問題を提起して、先生方のご批判を仰ぐ次第であります。

現在、本校の中学には9つの学芸クラブがある。それらは、音楽・農芸・生物・写真・技工・電研（電波研究部）・文芸・語学・物象である。

所で、私の担当している語学部であるが、当初、次のような批判を受けたことがある。

批判とは次のようなものであった——語学部は、英語を中心にした活動であるが、英語と言うものは受験教科の中で大きなウェイトを占めている。これをクラブ活動で扱うことは、受験教育ということにならないか。

もとより受験教育の全てが即ち悪であるという発想には、必ずしも同調出来ないが、私の担当している語学部活動が受験教育の一環であると見做されるに及んでは、正面から反論せざるを得なくなったわけである。

私の反論とは次のようなものであった。——受験に関係があると言えば、語学部だけでなく生物部・文芸部・物象部など何等かの点で、全て受験に関係ある部分を持っているではないか。その中で特に、英語に対して批判が出たと言うことは、よほど英語が受験で大きな地位を占めていることの反証にもなるが、逆に、そのような意見は、現在の受験体制に毒されて、物を正しく観る能力を失ってしまったのではないかとも思われる程である。

念のために、私の担当している語学部活動が受験教育ではないと言うことを説明してみよう。

なる程、語学部活動で素材として使われている英語その物は、受験問題集等の中にも登場して来るものがかかなりあるであろう。

しかし、同じ素材を使っているから受験教育であると思われたのでは知的教科に係るもののクラブ活動は一切不可能になってしまう。

では、受験教育と私の担当している語学部活動とはどこが本質的に違うのだろうか。

その違いは、素材である英語に接する際の動機にある。つまり英語に対する学習者の心理状態が違うと言うことになるろう。——受験の場合は、（それを非難するつもりはないが）、少しでも多くの英語を学び、競争者に打ち勝って、所期の目的を達することにある。一方、英語のクラブ活動の場合は、友人と一緒に少しでも多くの英語を学び、その苦しみと喜びを分かち合い、先輩・後輩のつながりの中で、好ましい人間関係が醸成されてくることになるろう。また一冊の本を読

み通すことによって、人生を深く考えなおす契機ともなろう。このように、英語クラブ活動の場合には、①英語の学習ということの他に、②人格形成ということが企図されているわけである。

このように、くどくどと述べなければならない事は、誠に残念であるが、当初、既述のような誤解があったので、念のため、ここで論述した次第である。

Ⅱ. 語学部の活動の実践から。

語学部の活動は大きく言って、①日常活動と、②夏休中の合宿、とに分けられる。では、①日常活動から述べてみよう。

現在の日常活動は次のようになっている。

(1)顧問(辻)担当の Tape Listening (AM: 8:00~8:20)

学年	曜日	使用教材
中 1	月	NHK カセット基礎英語 (S49年版)
中 2	火	NHK カセット続基礎英語 (S50年版) 英語の文型と文法
中 3	水	南雲堂カセット英会話カレンダー (S52年版)

いずれもテキストを生徒に見せずに、テープの音声を聴かせて、繰り返しさせて、Hearing と Speaking の練習にしているわけである。

(2)中3生徒担当の Tape Listening (AM: 8:00~8:20)

学年	曜日	使用教材
中 1	火	大修館基礎英会話コースBook 1 (S53年版)
中 2	月	” Book 2 (”)
中 3	月・火	” Book 3 (”)

語学部の伝統として、先輩が後輩を指導するという形態をとっているわけである。これは、この教材が program 化されているので、中3の生徒でも充分、中2・中1の生徒を指導出来ると判断しているからである。

以上の2つについて、出席カードというものを作り、毎回レッスンの終わりに、出席した月日と自分の氏名を書いて提出させている。この出席カードをもとにして、学年末に語学部費の中から、賞品を買って、出席率の高い者に、賞を与えている。

次にあげるのは、出席カードの $\frac{1}{2}$ 縮小コピーである。

1982年度中学語学部 (別名 Early Birds'Club) 出席カード

1982. 4. 11

※このカードの使い方
 毎朝このカードの自分のものをも
 らって☐の所に月/日を記入して
 右側に名前を書いて提出して下さい。

使用教材

LL室 (中3担当)

基礎英会話コース (大修館)

中1 Book I

中2 Book II

中3 Book III

Mr. TSUJI 担当

中1 NHK基礎英語テープ

中2 NHK 続基礎英語テープ

中3 Oxford Elementary

Stories for Repro-
 duction

※筆記用具は持参した方がよい。

◦ Program

時間 AM: 8:00~8:20

1年{ 中3担当 火 LL室
 Mr.TSUJI 月 235室

2年{ 中3担当 月 LL室
 Mr.TSUJI 火 辻準備室

3年{ 中3担当 月・火 LL室
 Mr.TSUJI 水 辻準備室

Language Laboratory (中3担当)				Mr. TSUJI			
1 /		26 /		1 /			
2 /		27 /		2 /			
3 /		28 /		3 /			
4 /		29 /		4 /			
5 /		30 /		5 /			
6 /		31 /		6 /			
7 /		32 /		7 /			
8 /		33 /		8 /			
9 /		34 /		9 /			
10 /		35 /		10 /			
11 /		36 /		11 /			
12 /		37 /		12 /			
13 /		38 /		13 /			
14 /		39 /		14 /			
15 /		40 /		15 /			
16 /		41 /		16 /			
17 /		42 /		17 /			
18 /		43 /		18 /			
19 /		44 /		19 /			
20 /		45 /		20 /			
21 /		46 /		21 /			
22 /		47 /		22 /			
23 /		48 /		23 /			
24 /		49 /		24 /			
25 /		50 /		25 /			
School Year _____ Class _____ Name _____							

△
顧
問
辻

弘
▽

出席率は、辻担当・中3担当の両プログラムとも、中1：10～12名、中2：10～12名、中3：4～6名と言った所である。

以上が日常の活動であって、とかく、日本の学校の英語授業で軽視される傾向にあると思われる音声を通しての英語の修得に力点を置いている訳である。

この早朝練習は、いわば訓練に重きを置いている訳であって、運動部で言う所の、ランニング、ボール投げ等の基礎訓練に相当するものである。

生徒達からは、たまに、この部活が単調であるとの不平を言われることもあるが、運動選手が不断の基礎訓練をするように、楽器奏者が不断の練習をするように、語学部の基礎も不断の練習にあることをさとしている。

この不断の訓練を回避する者は、語学クラブの基礎的資格を欠くことになると考えて、そのように指導に当たっている。

次に、夏休中の合宿について述べて見よう。

これは、8年前から実施して、今年は第8回目の実施になる。以下、年度、月日、費用、参加生徒数の順で記載する。

S.50年度 (第1回)

野辺山 筑波大学農林技術センター

八ヶ岳演習林宿舍

8/25(月)～8/27(日) 2泊3日

¥5,000

32名

S.51年度 (第2回)

本栖湖 本栖国際キリストバンガロー

8/5(木)～8/8(日) 3泊4日

¥13,000

30名

S.52年度 (第3回)

本栖湖 本栖国際キリストバンガロー

8/8(月)～8/11(木) 3泊4日

¥15,000

30名

S.53年度 (第4回)

石打 筑波大学石打研修所

8/9(水)～8/12(土) 3泊4日

¥13,000

24名

S.54年度 (第5回)

石 打 筑波大学石打研修所

8/2 (木) ~ 8/5 (日) 3泊4日

¥13,000

25名

S.55年度 (第6回) (以後全て筑波大学石打研修所にて実施した)

8/11 (月) ~ 8/14 (木) 3泊4日

¥15,000

31名 (高校語学同好会と合同)

S.56年度 (第7回) 3泊4日

8/7 (金) ~ 8/10 (月)

¥15,500

30名 (高校語学同好会と合同)

S.57年度 (第8回)

8/6 (金) ~ 8/9 (月)

¥16,000

参考のためにS.55年度の実施要項を提示する。

S.55.6.22

昭和55年度 (第6回) 中学語学部・高校語学同好会合同夏期合宿と申込書

目 的 生徒の安全に最大限の注意を払いつつ、大自然の中で英語の学習と諸種のグループ活動を通して、心身の健全な発達と友情を深める。また、附近の散策を通して、自然に対する愛情を養う。

内 容 学年別英語講読 グループ別英語劇 英語の歌 スピーチ等

日 程 8月11日 (月) ~ 8月14日 (木) 3泊4日

場 所 新潟県南魚沼郡塩沢町舞子

筑波大学石打研修所 (旧北辰寮) tel 02578-3-2867

参加予 生徒 30名 OB (筑波大4年生) 4名 教官 2名 計36名
定人員

O・B 筑波大学英語専攻学生 渡辺雅仁 稲葉千穂 三輪佐枝子 菅谷典子
(中3担当) (中2担当) (中1担当) (高1担当)

(いずれも一学期に本校で教育実習を終えた人達)

引率教官 久保木清 辻 弘

所要経費 ¥15,000 (交通・宿泊・食事・テキスト・傷害保険等一切を含める)

合宿内容および日程表

8月11日(月)	8月12日(火)	8月13日(水)	8月14日(木)
7:10 上野駅団体待合所集合	6:00 起床 ラジオ体操運動	6:00 起床 ラジオ体操運動	6:00 起床 ラジオ体操運動
7:56 上野発(水上行普通)	7:30 朝食 9:00	7:30 朝食 9:00 お天気の場合	7:30 朝食 8:00 学年別講読のまとめ反省録提出
11:09 水上着 休憩・昼食	12:00 学年別英語講読	ハイキング (飯盒炊飯)	9:00 後片付け
12:40 水上発	12:30 昼食	16:00 帰着	10:00 宿舍発
13:38 石打着	13:30 自由時間 附近散歩	17:00 入浴	10:52 石打着 (高崎行)
14:10 徒歩又はマイクロバスで研修所着 休憩附近散歩	運動 17:00 入浴	18:00 夕食 19:00	12:38 新前橋着 12:47 新前橋発
17:00 入浴	18:00 夕食	21:00	14:46 上野着
18:00 夕食	19:00	22:00 就寝	14:50 上野駅団体待合所にて解散
19:00	学年別英語講読		
21:00	21:00		
22:00 就寝	22:00 就寝		

- 註1 使用テキスト 高1・英潮社 G. C. Thornley The Green Looking Glass
 中3・中央図書 O Henry's Short Stories Retold
 中2・朋友出版 Rip Van Winkle, The Great Stone Face
 中1・令文社 Find My Sons and Other Stories

註2 天気の場合によってハイキング, その他の日程に変更があるかも知れません。

註3 団体旅行ですので, 赤羽などでの途中乗車, 下車は出来ません。

— 切りとり線 —

昭和55年度中学語学部・高校語学同好会合同夏期合宿申込書

筑波大学附属駒場中・高等学校長 小林次郎 殿

夏期合宿に参加させたく思いますので, 所要経費を添えて申込みます。

昭和55年7月11日

生徒氏名(年組) _____ 保護者氏名 _____ ㊟

この語学部合宿の特徴をいくつか列挙してみたい。

1. 生徒の安全に最大限の注意を払うこと（これはどこのクラブでも同じ）
 2. 大自然の中で英語をグループで学習すること 従って、
 - ①健康な人間関係の醸成を企図していること。中3から中1まで1つのグループをつくり、1室で寝起きをして諸活動を共にする。
 - ②自然に対する愛情を育成すること。飯盒炊きさん時に出るゴミは埋めないで、全て持ち帰るようにしている。
 3. 耐乏生活を経験させること。
 - ①目下の所、普通列車で、水上乗り換え石打まで行き、帰りも、普通列車で、新前橋乗り換え、上野着となっている。
 - ②副食物を家から持参することは、原則として認めていない。副食物（おやつ）は、原則として、団体で同じ物を食べることにしている。
 - ③合宿中の飯盒炊きさんハイキングでは、水は勿論・薪・かまどの石など、全てそこに在る自然の物を（拾って）使うことにしている。
 4. 英語を学ぶ喜びを感じさせるようにしている。日頃、教室では、仲々、一冊の英書を読み通すことが出来ないが、充分ある時間を活用して、中1～中3の各学年とも、それぞれの能力に応じた一冊の英書を読み通すことにしている。読み終わった後は、充実感を覚えるであろう。
 5. 厳しい英語の訓練が自然に行われるように企図されている。
 - ①中1～中3まで、各学年の能力に応じた暗誦例文を用意しておき、暗誦させる。
 - ②学年を網羅したグループ毎に、同一の英語劇を上演させる。
以上、①も②も最終日の前の晩に行われる「英語コンテスト（大会）」で、個人別・グループ別に覇を競うことになるので、生徒達は結構、一生懸命に練習又は、暗誦している。
 6. 最後に文集を作らせることによって、良い思い出をいつまでも持たせることと、文章を書くことによって、自己の行動を内省させ、かつ、表現力を養うことを企図している。
- 合宿で、今迄使ったテキストを列挙してみると、以下のようなものである。

中1 令文社

Step-by-Step Junior Readings Find My Son! and Other Stories

Longman Structural Readers Detectives from Scotland Yard

中2 朋友出版

Rip Van Winkle ; The Great Stone Face

開隆堂

O. Henry's Stories

中3 中央図書

O. Henry's Short Stories

Souls of Japan (Lafcadio Hearn) Revised

英潮社

Lafcadio Hearn KWAIDAN

尚、暗誦例文は、現在本校で使用していない教科書、又は、昔発行された所の中1～中3用の教科書から、適当な箇所を使っている。

Ⅲ. 語学部活動を通して考えること。(今後の課題)

1. 早朝練習を行っている意味は、放課後の他のクラブ活動との重複を避けようとしたためで、今後も、練習の時間は朝で良いと思っている。

しかし、夏の合宿が終ると、どうしても早朝練習の参加率が鈍る。

この参加率向上をねらって、年度末の出席率による賞品授与をしているのであるが仲々、参加率減少を押えることが難しい。

2. 高校との連携をとるべきである。

昭和55・56年度は、高校語学同好会との合同合宿が行われたが、57年度は高校語学同好会が別の場所で、合宿を実施することになってしまった。将来は、再び、合同して行い、良い意味での中～高の連携を計りたいものである。

3. 語学部が、夏期合宿をするという事は、日本の学校の中でも、数少ない事例に入ると思われる。しかし、上述して来たように運動部の合宿や、学校全体の林間(臨海)学校とは違い、また別の捨て難い教育機能が果たされていることが、ご賢察いただけると思う。

教育研究(実験)校としての本校において、このような実験が今後も許され、とかく、頭又は体だけの教育に走りがちで、我が国の教育界において、頭も体も心も、その健全な発達を願う教育実践が続けられる事を願うや切である。